

旧街道を歩いて (続)

「歴史街道を歩いてみよう『江戸五街道』旅日記」の著者
八尋 章文

旧街道を歩いて(続)

1. 歩き始めて13年
2. 街道のしくみ
 - ・宿場の機能
宿泊施設、人馬の継立、治安維持、その他
 - ・街道に設けられた施設や工夫
川会所、茶屋、常夜燈、しるべいし、接待所、
曲尺手、大曲、切通し、掘り切り、石畳道
 - ・川渡り
徒渡し、渡し舟、舟橋
3. 日向神話と神武天皇の東遷
 - ・日向神話伝説の地「美々津、
 - ・日本神話と神武天皇
皇宮屋、八紘之基柱
 - ・日本海軍発祥の地「美々津、

平成28年4月7日 18:00～
ウォーターフロント開発協会



*講師プロフィール
八尋 章文 (やひろ あきふみ)

1943年 京都府生まれ
1966年 金沢大学電子工学科卒業
同年(株)金門製作所入社 開発部に従事
1970年 (株)東芝入社 府中工場電力用計算機システム設計に従事
東北システムセンター所長を務め1998年退職
1998年 東芝エンジニアリング(株)入社
経営変革統括責任者を務め2002年退職 現在に至る
東京都昭島市在住

*著書
・旧街道紀行一歩いて学ぶ歴史と文化(けやき出版 2016年4月末発行予定)！
・歴史街道を歩いてみよう『江戸五街道』旅日記(文芸社2006年)
*HP:「みちの旅」, <http://home.att.ne.jp/sea/yahiro/>

旧街道を歩き始めたのが平成14年4月。
密かに心した目標は主要旧街道を歩いて、北海道、沖縄を除く
都府県横断だった。
平成27年の3月26日、日向街道の最後の区間(宮崎～鹿児島)
を歩き終え、この目標をなんとか達成！
歩いた街道数は41、距離約9,300km、
北海道と沖縄を除く45都府県を一応歩いたことになる。

ただ今紹介を頂きました八尋です。5年前に「旧街道を歩いて」をお話ししているの、今日は(続) ということでお話しします。

ウォーキングマップに示したように、昨年3月に主要旧街道を一通り歩き終えました。今日は、こうして歩いて私なりに学んだこと、経験したことを併せてお話ししたいと思っております。

歩き始めて13年。歩いた旧街道はウォーキングマップ(地図)の赤く辿ったところで、街道数41、距離約9,300km、期間は平成14年の4月1日から昨年の27年3月25日まで丁度13年。最後に日向街道を歩き終え、北海道と沖縄を除く45都府県を一応歩いたことになります。

こうして「歩き終えて」みて、他の街道との違いを感じたのは四国を歩いた時です。一つは庚申塔や馬頭観音といった石塔や石仏を見かけなかったこと、もう一つはお遍路さんと間違えられたことが度々あったことです。例えば、歩

いているときに手を合わせて拝まれたりすると戸惑ってしまいます。それから、女の人が手を振っているのので近づくとドリンク剤をくれるんです。「あそこまで大変ですね。これを飲んでください」といった接待を受けたこともあります。他にない親しみを感じるものがありました。

最もインパクトを受けた街道は、明治維新のエネルギーを肌で感じた山陽道、長崎街道、薩摩街道でした。例えば大砲、砲台を置いてあるとか明治維新に係わる史蹟がいっぱいあります。私は北陸育ち、北陸道にはこのようなものは見かけませんね。

もう一つは日本神話の一端に触れた日向街道です。今まで古事記や日本書紀に関心がありませんでした。この日向神話「神武東遷船出の地」「美々津」という港を訪れた時には日本神話について非常に興味が湧いてきました。

今日はこうして歩いて見聞を広め学んだ中から、街道のしくみと日向神話と神武天皇の東遷についてお話ししたいと思っております。

目次に従い、まず「街道のしくみ」／宿場の機能についてです。
宿場の機能の一つ、宿泊施設には本陣・脇本陣、旅籠屋、木賃宿があります。
“本陣”は大名や重臣が休泊したところ、写真の左が東海道の草津宿本陣、右は西国街道の郡山宿本陣でいずれも国史跡になっています。西国街道は京都と西宮を結ぶ街道です。

2. 街道のしくみ／宿場の機能

宿場の機能

1. 宿泊施設・・・本陣・脇本陣、旅籠屋、木賃宿、芸妓置屋もあった！
2. 人馬の継立て・・・道中の荷物や人の輸送・飛脚などの
継立事務を行う → 宿役人
3. 治安維持 *宿場・・・木戸、宿見附、枡形(鍵の手、鍵形)、高札場、
*城下町・・・二十七曲がり、のこぎり家並み
4. その他・・・・時の鐘、間の宿、助郷など

宿泊施設／本陣

⇒ 大名やその重臣が休泊



〈東海道 草津宿本陣〉
国史跡



〈西国街道 郡山宿本陣〉
国史跡

“旅籠屋、は一般の武士や庶民が泊まる宿で、写真の左上は私が泊まった大妻籠宿の「つたむらや」という旅籠です。右上が妻籠宿の町並みです。右下は木賃宿で、薪代を払って持参米を自分で炊く安い旅籠です。韓国に出張した知人によると、韓国には最近まで木賃宿があったようです。

左下は妻籠宿にあった木賃宿の説明で、「この建造物は 44 年の解体復原によって江戸中期（十八世紀）の建物と推定される。建造当初の形式をよくとどめ庶民の旅籠（木賃宿）としての雰囲気をつかうことができる」と書いてあります。

2. 街道のしくみ／宿場の機能／宿泊施設

旅籠屋 ⇒ 一般の武士や庶民が泊まる



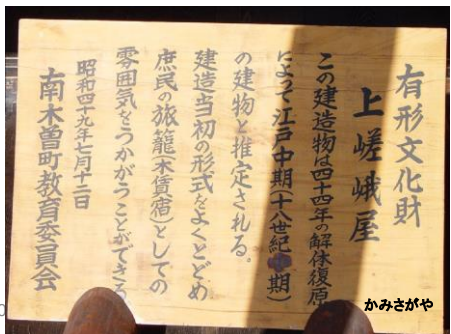
← 大妻籠



妻籠宿

木賃宿 ⇒ 薪代を払って持参米を自分で炊く安い旅籠
(きちんやど)





20

次頁に東海道の関宿の芸妓置屋と旅籠屋の屋号の写真があります。旅籠屋には遊女や飯盛り女と言って旅人の気をひく芸妓置屋も有ったようです。飯盛り女というのは宿場に居た宿場女郎ですね。

左上の説明板に「同家は昔かいうん楼と称し隣の松鶴楼と並んで芸妓置屋であった。街道筋の宿場ではたいていの旅籠は飯盛女と呼ばれる遊女を置き、また、専門の遊郭も多かった。かいうん楼はその代表的なもので表の立繁格子やべにがらぬりのかもいや柱にその面影を遺している」とあります。

また旅籠屋には屋号が付いています。屋号とは商家などに付けられた称号です。武士以外は苗字を名乗ることが認められていなかったため、日常生活上必

要だった商家、或いは大きな農家が、苗字の代わりに屋号を使うようになったといわれています。

2. 街道のしくみ／宿場の機能／宿泊施設

旅籠屋 “芸妓置屋”



東海道(関宿)



旅籠屋には遊女や飯盛女など
旅人の袖を引く芸妓置屋もあった！
飯盛女・・・宿場にいた女娼で宿場女郎とも

旅籠屋 “屋号”



(屋号)

⇒ 商家などにつけられた称号



2016/6/3 中山道<坂本宿> 武士以外は苗字を名乗ることが認められていなかった！

宿場の機能の二つ目に “人馬の継立て、” があります。

2. 街道のしくみ／宿場の機能／人馬の継立て

人馬の継立て／問屋場

人馬継や飛脚・荷物を取り扱う所 ⇒ 問屋場(といやば)

籠や宿継ぎの荷物は、宿場で継ぎ代え、
次の宿まで輸送する。
この継立てを行うのが問屋場で、
馬屋や人足の詰所が設けられていた



関ヶ原宿の「問屋場」



人馬の継立ては、宿場の大きな役割です。籠や宿継ぎの荷物は宿場で継ぎ代え、次の宿まで輸送する。この継立てを行うのが問屋場で、馬屋や人足の詰所が設けられていたとのこと。

左下の写真は関ヶ原宿の問屋場で、右下の写真がそこに立っている説明板です。「江戸時代、人や馬の継ぎ立てなどを行った問屋が、当宿には一時七軒もあって全国的にも珍しいことでした」とあります。関ヶ原は大きな宿場だったのですね。色んな街道が交わっていて、「関ヶ原の戦い」は中山道の関ヶ原だけでなく交差する街道一帯で戦いが行われていたということを知りました。

宿場には一定数の人馬の常備が義務づけられていて、東海道は 100 人 100 匹。100 匹は馬のことです。中山道はその半分、その他の街道ではさらに半分の定置を定め、これを宿構成員が間口の幅などに応じて分担拠出させられていたといわれています。また、指定の 50 人とか 100 人とか整えられない宿場の不足分は近隣の助郷がこれを補充していたようです。助郷とは継立てする人馬の基準数で不足する分を周辺の村々から雇い入れる制度のこと。上手いしくみを作ったものです。

先ほどの関ヶ原宿の問屋場はかなり間口が広がったですね。お金の無い所は間口を狭くしてウナギの寝床のようにしている。こちらは金持ちだから間口を広げて言う事を聞くよという意思表示を感じるみたいです。

2. 街道のしくみ／宿場の機能／人馬の継立て

宿役人

こういった道中の荷物や人の輸送、飛脚などの
継立事務を行うのが“宿役人”（しゆくやくにん）

道中奉行の命を受けた最も重要な宿場の役人で、
宿役人には問屋、年寄、その下役人に人足指、馬指、書役（かきやく）
などが設けられていた。
代々務めた宿役人には名字・帯刀を許可された家もあったという



中山道・大井宿の「宿役人の家」



こういった道中の荷物や人の輸送、飛脚などの継立事務を行うのが宿役人で、上の写真は中山道・大井宿の宿役人の家です。

宿役人は、道中奉行の命を受けた最も重要な宿場の役人で、宿役人には問屋、年寄、その下役人に人足指、馬指、書役などが設けられていました。代々務めた宿役人には名字・帯刀を許可された家もあったといわれています。

道中奉行は宿役人を上手く使っており、宿役人たちも結局地元の名主になるので、お互い上手く利用していたという気がしますね。中山道大井宿の宿役人の家も間口が広くて立派ですね。説明板には「代々大井宿役人の問屋役を務め、名字帯刀を許された家柄である」と書いてあります。宿場から宿場に物を運んだり、馬を乗り換えたり、荷物の継ぎ代えを行うのが宿役人で、飛脚を交代させるのも宿役人の仕事。だから人をいっぱい抱えていないとダメだというのが先ほどの話だと思います。

もう一つ、宿場の大きな機能に治安維持があります。ここに書いてあるように、大名や重臣が休泊することから、宿場には城塞の役割が兼ね備えられていました。例えば、宿場の出入り口に番兵を置いた“木戸”、“宿見附”、“構口”などを設け、夜間は防犯などの目的で閉鎖しています。要は宿場の出入り口に門を設け番兵も置いていたということです。

2. 街道のしくみ／宿場の機能／治安維持

宿場入口に設けられた“宿見付”、“溝口”

(かまieguchi)



舞阪宿の入口に設けられた
“宿見付”の石垣跡
(東海道)

松崎宿の“北構口”
(薩摩街道)



この写真は、宿場入口に設けられた宿見付や溝口跡の石垣跡です。左は東海道・舞阪宿入口の宿見付の石垣跡です。道の両側にあったものと思われます。

右の写真は薩摩街道・松崎宿の北構口です。こちらは両側にきちんとした石垣が残っているようです。

また“枅形”といって、宿場の入り口を枅形の構造にして、宿場の中が見えないよう工夫しています。これを鍵の手とか鍵形とも呼ばれています。さらに入口に番兵を置いていたということです。このように大名が泊まる宿としての警戒を厳しくやっていたようです。

それから“高札場”を設けて、主君や領主の命令・禁制などを人民に周知徹底するため、名主宅前など目立つ場所にこれらを書き留めた札板が掲げられています。

2. 街道のしくみ／宿場の機能／治安維持

枅形、高札場



福島宿(中山道)

枅形
宿場の入口を枅形構造
にして、宿場の中が
見えないよう工夫
(「鍵の手」、「鍵形」ともいわれる)



奈良井宿(中山道)



2016/5/19

妻籠宿(中山道)

高札場
主君や領主の命令・禁制などを
人民に周知徹底。
宿場や村の名主宅前など目立つ
場所に設置されていた。

左上の写真は福島宿（中山道）の枅形の様子を示す説明板です。右上は奈良井宿（中山道）の枅形部分の写真です。中央に説明標柱が立っています。このように、入口に門番を置き、この先を枅形にするというのが一般的構造だったようです。左下の写真は妻籠宿（中山道）の高札場です。ここに主君や領主の命令・禁制などを人民に周知徹底した高札が7枚架かっています。この一つに、今でも通用する「人を傷つけてはいけない・・・」といったことが書いてあります。

次は「城下町の工夫」についてです。城下町は防衛上の工夫から、城下の路を幾つも屈曲させた「二十七曲がり」や、敵が攻めてきたとき、くぼみに隠れ、不意をついて攻撃できる「のこぎり家並み」を設けていたところがあります。

左下の地図は東海道・岡崎城下の二十七曲がりです。地図の左上辺りに岡崎城があります。朱記で示した道が東海道で、幾つもの曲がり角を経て岡崎城下を通り抜けています。私が歩いた時はこの曲がり角に道標が建っていましたが、昔の人はうろうろしているうちに怪しまれて捕まってしまうのではと思います。このように城下町の道筋は複雑にして分かり難くしていたようです。

右下の写真は薩摩街道・佐敷宿の「のこぎり家並み」を示しています。面白いのは、道の両側に建つ家は、道に並行ではなく少し斜めに建っています。これがノコギリの刃のように見えるのでこの名が付いています。敵が来た時、この窪みに隠れ、ふいをついて攻撃できるというものです。中山道にもあります

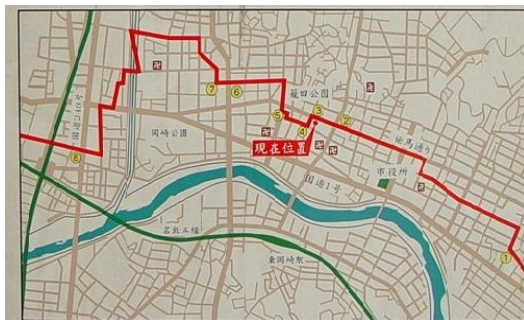
が、こちらは稲妻型道路といわれています。ギザギザ状に家が建っているので稲妻型道路といわれています。

2. 街道のしくみ／宿場の機能／治安維持

城下町の工夫

防衛の意味から、城下の道を幾つも屈曲させた“**二十七曲がり**”や、敵が攻めてきたとき、くぼみに隠れ、不意をついて攻撃できる“**のこぎり家並み**”を設けていたところがある。

佐敷宿の“のこぎり家並み”（薩摩街道）



岡崎城下の“二十七曲がり”（東海道）



（中山道・守山宿では“稲妻型道路”といわれている）

“宿場の機能”のその他として、正確な時刻を知らせた“時の鐘”、宿場と宿場の間に設けられた“間の宿”があります。

次頁左の写真は内藤新宿にある天龍寺の時の鐘です。これは、夜通し遊興する人々を追出す合図として、追出しの鐘ともいわれ、伝馬町獄の近くにあった時の鐘は、鐘の音を合図に処刑が執行されたことから、処刑者の延命を祈るかのように遅れたこともあって情けの鐘といわれたようです。

右の写真は名古屋の宮宿湊の時の鐘です。遠くの船まで聞こえるようにと大きな時の鐘が建っています。

2. 街道のしくみ／宿場の機能／その他

その他

正確な時刻を知らせた「時の鐘」、宿場と宿場の間に設けられた「間の宿」、宿場の負担を転嫁された「助郷」などがある

あいのしゆく



天龍寺の「時の鐘」

時の鐘

宮宿湊の「時の鐘」
(東海道)



- ・天龍寺の「時の鐘」は、内藤新宿で夜通し遊興する人々を追出す合図として、「**追出しの鐘**」ともいわれたという。
- ・伝馬町獄の近くにあった「時の鐘」は、鐘の音を合図に処刑が執行されたことから処刑者の延命を祈るかのように遅れたこともあって「**情けの鐘**」ともいわれたという。

2016/5/19

それから、宿間の距離が3～4里に及ぶとき、途中に「間の宿」を設け、人足の休憩所や旅人の休憩に便宜を図っています。東海道は宿・五十三次で距離約500kmです。概略で10kmおきに宿場が設けられていることになります。宿間の距離3～4里は12～16km、少し距離が長いので間に宿を設けたものと思われます。

街道のしくみの二つ目「街道に設けられた施設や工夫」には次のようなものがあります。ここでは朱記項目を説明します。

〈検問・徴税〉・・・関所、番所、**川会所**

〈旅人の利便性〉・・・一里塚、松並木、**茶屋**、道標、常夜燈、**しるべいし**
接待所、**曲尺手**、**切通し**、**掘り切り**、**石畳道**

まず川会所についてです。

東海道の安倍川、大井川、酒匂川は架橋を禁じられ、往来する旅人は川越人夫に渡してもらっています。この川越人夫が人や荷物を渡すのを監督する所が川会所です。この川会所は川越の料金を決めたり、川札を売ったり、警備や見張りのために番人が詰めた施設といえます。次頁左の写真は大井川の川会所跡です。現在、復元されていて国史跡になっています。右の写真は川札の値段表

です。肩までの深さ（脇通し）で 2,820 円、一番浅い膝くらいで 1,440 円とあります。

2. 街道のしくみ／街道に設けられた施設や工夫／狭間・徴税

川会所

さかわがわ

東海道で架橋を禁じられていたのは**安倍川**や**大井川**、**酒匂川**などで、
往来する旅人は“**川越人夫**”に渡してもらっていた

《川越人夫が人や荷物を渡すのを監督する所》

川越しの**料金**を決めたり、**川札**を売ったり、**警備**や**見張り**のために
番人が詰めた施設

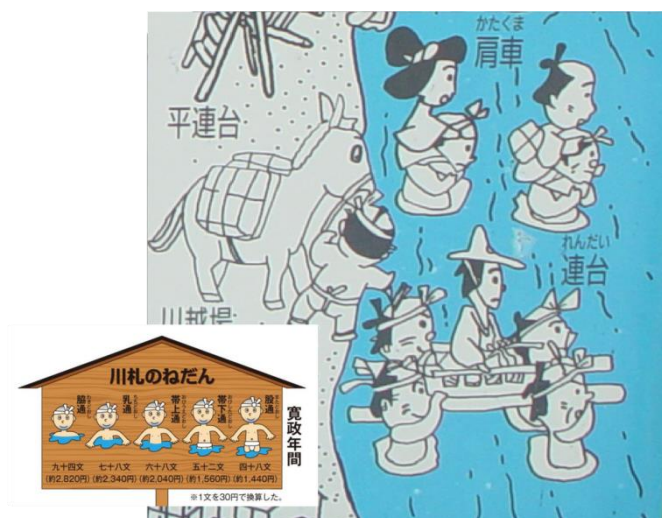


大井川の川会所跡



下の写真は川会所の見学案内板の写真です。施設の配置図と女性が人足に肩車され、蓮台に乗って渡っている様子が描かれています。





左の写真は肩車で渡っている人、蓮台に乗って渡っている人達の様子を拡大したものです。

このような乳通の場合は、2,340 円の川札を買って、川越人夫に渡すことになります。一人あたり 2,340 円ですから蓮台に乗る人は 2,340 円×4 人で 9,360 円となります。川会所の役人は天候や川の増水状態に依って、問題が起こらないよう

に川札の値段を決めていたものと思われます。

次は“旅人の利便性”についてです。茶屋は旅人のための休憩所で、宿場や峠、峠の前後にあって、お茶・一膳飯・お酒などを売っていました。この茶屋は場所や目的によって立場茶屋、籠立場と呼ばれています。次の宿場が遠い場合は中間地点に、峠のような難所には休憩施設として設けられています。茶屋や売店があって馬や駕籠の交代を行うところもあったようです。

2. 街道のしくみ／街道に設けられた施設や工夫／旅人の利便性

茶屋、籠立場

茶屋

旅人向けの休憩場で宿場や峠、峠の前後にあって、お茶・一膳飯・お酒などを売っていた

場所や目的によって“**立場茶屋**”、“**籠立場**”と呼ばれていた

次の宿場町が遠い場合はその中間地点に、峠のような難所には**休憩施設**として設けられていた茶屋や売店があって馬や駕籠の交代を行うところもあった

木屋瀬宿の“立場茶屋”
(長崎街道)



「参勤交代の諸大名をはじめ、長崎奉行、巡検使などが休憩したところ」
(こやのせ じゅく)

籠立場 (かごたてば)

藩主が街道を往来する際に休憩する場所で、駕籠を置いて一服したことから**籠立場**といわれている。
特に熊野古道に籠立場跡が多く見られる



2016/5/

← 熊野古道の籠立場跡

前頁の右上は長崎街道・木屋瀬宿の立場茶屋の写真です。参勤交代の諸大名や長崎奉行などが休憩したところなので立派な茶屋ですね。現在、観光ポイントになっています。

茶屋は場所や目的によって立場茶屋、籠立場と呼ばれています。籠立場は藩主が街道を往来する際に休憩する場所で、駕籠を置いて一服することから、籠立場といわれています。特に熊野古道に籠立場が多く見られたとのこと。

左下の写真は熊野古道の籠立場が建っていたところです。少し開けた所にあつて、藩主はここで駕籠を降ろし一服したところと思われます。

次は「しるべいし」についてです。別名「迷子しるべ」ともいわれ、迷子になった子供の特徴などを紙に書いて左面「たずぬるかた」に、心当たりのある人が右面「しらするかた」に張ったといわれています。左下の写真に「たずぬる方」、右下の写真に「知らるかた」と刻まれています。従つて、ここに来れば迷子の人が解決するしくみになっています。浅草観音の「しるべいし」は有名だったようですが、今は無くなっているようです。下の写真は岡山城下に残っている「しるべいし」です。

2. 街道のしくみ／街道に設けられた施設や工夫／旅人の利便性

常夜燈、道しるべ

宮宿湊(東海道)→

常夜燈

夜道の安全を願うとともに街道の「道しるべ」として、港町では「灯台」の役目をもつ

大型の常夜燈が設置された。

村を火難(かなん)から守るために「火伏せの神」を祀った秋葉神社の常夜燈が信仰の対象として設置されていた



秋葉燈とも呼ばれ、
村人が順番に毎日夕方、ろうそくや菜種油 →
を燃やして火を灯していた



しるべいし

別名「迷子しるべ」ともいわれ、

迷子になった子供の特徴などを

紙に書いて、左面「たずぬるかた」、

心当たりのある人が右面「しらするかた」、

に張った

(浅草観音の「しるべいし」は有名だったという)

岡山城下に残る「しるべいし」⇒



“接待所”は旅人に無料で施しをするところで、施行所ともいわれています。特に晩秋から早春にかけての峠では、旅人や荷物を運搬する馬子たちの避難所が必要だったようで、和田峠と箱根峠に接待所跡が残っています。下の写真は中山道・和田峠の施行所です。

2. 街道のしくみ／街道に設けられた施設や工夫／旅人の利便性

接待所

旅人に無料で施しをするところで施行所ともいわれる
特に晩秋から早春にかけての峠は、
旅人や荷物を運搬する馬子たちの避難場所が必要だった
(まご)

和田峠(中山道)の施行所、
箱根峠(東海道)の接待茶屋、
では馬に飼葉を与え、
冬には旅人を粥と焚き火で接待した



2002 11 28

和田峠の施行所
(中山道)

2016/5/19

“大曲”は、下の写真のように見通しの良い街道に、クランク型の大きな直角の曲がりがあるところをいいます。

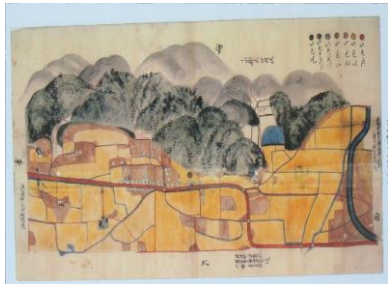
2. 街道のしくみ／街道に設けられた施設や工夫／工夫・知恵

工夫・知恵／曲尺手、大曲

曲尺手 (かねんで)
意識的に直角に曲げられた道のこと
格式の違う大名がすれ違う場合、低い方は駕籠から降りて挨拶するがしきたり。主君を駕籠から降ろすことは行列を指揮する供頭にとって一番の失態。そこで斥候を曲尺手の先に出して偵察し、かち合いそうなら休憩を装って近くのお寺に緊急避難することもあったという。

大曲 (おおまがり)
見通しの良い街道に、クランク型の大きな直角の曲がりがあるところ

単調な旅に変化をもたせるため
一里塚と共に造られた
東西に走る敵の数を調べるのに都合がよく、
また参勤交代の際に殿様が駕籠を止めて
前後に続く自分たちの行列を眺めて
は長い旅を続けたという



山陽道(岡山～広島県境近く) ⇒

2016/5/19

田畑の区画から判断すると 100m～200m くらい大きく直角に曲がっています。このクランク型の道は単調な旅に変化をもたせるために造られたようで、東西に走る敵の数を調べるのに都合がよく、また、参勤交代の際に殿様が駕籠を止めて、前後に続く自分達の行列を眺めては長い旅を続けたとのこと。山陽道の岡山～広島県境近くにこの説明板が立っていました。

“曲尺手（かねて）” は、意識的に直角に曲げられた道のことで、格式の違う大名がすれ違う場合、低い方は駕籠から降りて挨拶するのがしきたり。主君を駕籠から降ろすことは行列を指揮する供頭にとって一番の失態だと。そこで斥候を曲尺手の先に出して偵察し、かち合いそうなら休憩を装って近くのお寺に緊急避難することもあったといひます。

“切通し” はご存知の方が多いと思いますが、トンネル掘削技術が発達していなかった明治時代以前に、切り立った地形の難所に道路を切り開く手段として広く用いられていたようです。写真の右上は熊野古道の女鬼峠の切通しです。この横に崩落を防ぐ古い石積みが多く残っています。

2. 街道のしくみ／街道に設けられた施設や工夫／工夫・知恵

切通し、掘り切り

切通し
トンネル掘削技術が発達していなかった明治時代以前には、切り立った地形の難所に道路を切り開く手段として広く用いられた

掘り切り
尾根道のように道を狭く掘り切って両側を谷にした道





↑
熊野古道（女鬼峠）の切通し
切通しの崩落を防ぐ古い石積みが見られる

←
豊臣秀吉の小田原攻撃の際、小田原勢の武将が**碓氷峠の峠道**を狭く掘り切って防戦した中山道の碓氷峠にこの**掘り切り跡**が残っている

“掘り切り” は、あまり見かけませんが、尾根道のように道を狭く掘り切って両側を谷にした道のことです。左下の写真がそうです。これは豊臣秀吉の小田原攻撃の際に小田原勢の武将が碓氷峠（中山道）の峠道を狭く掘り切って防戦したといわれる掘り切り跡です。ここに説明板が立っています。

最後の「石畳道」についてです。石畳道とは道の一部に平たい自然石を畳のように敷き詰められたところです。下の写真は苔むした石道が続く熊野古道（大吹峠）の石畳道です。有数の多雨地帯である尾鷲地方の熊野古道には多くの石畳道が残っています。大雨による路面の流失や崩壊から守り、夏草やシダ類の繁茂をおさえて道筋を確保するためだといわれています。この石畳には鎌倉時代と江戸時代のものがあります。



下の写真の左は鎌倉時代の石畳で、右は江戸時代の石畳です。鎌倉時代のものは、段差があるように大きなのがボンボンとついていて、敷き方も重厚で豪快。熊野古道の波田須に鎌倉時代の石畳道が見られます。江戸時代のものは小じんまりとしていて、箱根に多くみられます。



次は、街道のしくみの最後「川渡し」についてです。川渡しには徒渡し、渡し舟、舟橋、架橋とありますが、架橋を除く三つを説明します。川越人夫の肩車や蓮台に乗って川を渡る徒渡しは川会所で話した通りです。



次の写真は、渡し舟（宮川の渡し、栗生の渡し）の様子です。

2. 街道のしくみ／街道と河川／川渡り

渡し舟

船を利用して人や牛馬を乗せて渡るもの



↑
「宮川の渡し、の様子
(伊勢街道・伊勢市)

手取り川の粟生の渡し →
(北陸道・能美市)

手取川は石川県最大の
「暴れ川」として
大洪水を何度も繰り返し、
対岸とは、
通称「粟生の渡し」
と呼ばれる「綱繰り渡船」
が唯一の方法だったという

東海道では多摩川、富士川、天竜川、
浜名湖の今切渡し（舞坂宿～新居宿）
七里の渡し（宮～桑名の海路）
等がある。



渡し舟、は舟（船）を利用して人や牛馬を乗せて渡るもので、宮川の渡しは伊勢街道・伊勢参り時の賑やかな渡し風景を思わせます。

手取川（粟生の渡し）は石川県最大の暴れ川として大洪水を繰り返し、対岸とは通称「粟生の渡し」と呼ばれる綱繰り渡船が唯一の方法だったようです。下の絵は「粟生の渡し」を拡大したものです。2本の柱にロープが張られていて、二人の人夫がこのロープを手繰って渡っている様子が見られます。船に馬も乗っています。昔は大変だったのでしょうか。



綱繰り渡船

舟橋、は対岸との間に 10 隻近い小舟（台舟）を浮かせ、この舟に板を敷いて人を渡す橋にしたものです。

次頁の写真（右）は「千曲川の舟つなぎ石」です。大石で繋ぎ止めた 9 艘の舟を 2 本の針金で繋ぎ、その上に板を並べて橋としたものです。舟つなぎ石という大きな石を舟の後ろにつけて動かないようにしたもので、この大石を千曲川の舟つなぎ石といわれています。

次頁の左の写真は九頭竜川の舟橋です。柴田勝家は 48 艘の舟を出させ、刀狩りで集めた刀や鉄砲の鉄から作った鎖でこの舟を繋ぎ、その上に板を並べて橋にしたものです。天下の三大舟橋として知られています。

2. 街道のしくみ／街道と河川／川渡り

舟橋

**対岸との間に10隻近い小舟(台舟)を浮かせ、
この舟に板を敷いて人を渡す橋にしたもの。**



← **九頭竜川の舟橋**
(北陸道／福井市)

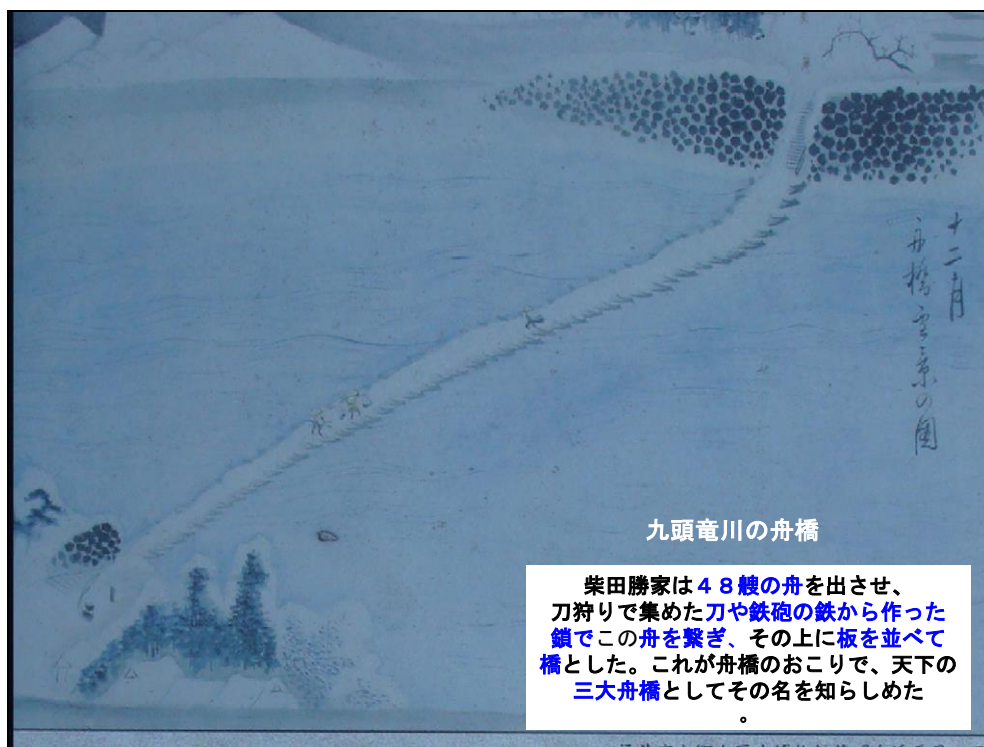
柴田勝家は**48艘の舟**を出させ、
刀狩りで集めた**刀や鉄砲の鉄**から作った
鎖でこの**舟**を繋ぎ、その上に**板を並べて**
橋とした。これが舟橋のおこりで、天下の
三大舟橋としてその名を知らしめた。



千曲川の舟つなぎ石
(中山道／佐久市)

大石で繋ぎ止めた**9艘の舟**を**2本の針金**
で繋ぎ、その上に**板を並べて**橋とした

九頭竜川の舟橋を拡大したのが下の写真です。



最後は「日向神話と神武天皇の東遷」についてです。

日向街道を日向市から南に下ると、耳川の河口に歴史を刻んだ美々津港があります。ここは昔から千石船を所有する商業港として栄えた町で、重要伝統的建築物群の保存地区になっています。

その昔、この宮崎県的美々津は、神武天皇が日本を治めるために日向から大和へ東遷されたという、“神武東遷船出の地”の伝説の地として知られています。宮崎にはこうした日向神話・神武天皇に係わる史跡がいろいろあります。この美々津を始め、都農神社、八紘之基柱（あめつちのもとはしら）、皇宮屋（こぐや）、宮崎神宮もそうです。こういうことから宮崎は神話の観光ポイントになっています。

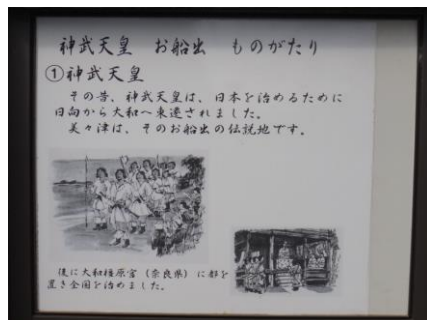
「美々津町歩き」パンフレットによると、のちの初代・神武天皇は「この土地は国を治めるにはあまりにも西により過ぎている。東方に青山をめぐらした美しい国があつて、すでにニギハヤヒノミコトという者が国を拓きつつあるとか。そこへ行って、まつりごとをするにふさわしい都をつくりましょう」。これが日本書紀にも描かれる「神武東遷」の神話で、その時、舟出するための地として選ばれたのが、日向市的美々津といわれています。

3. 日向神話と神武天皇の東遷／日向神話伝説の地「美々津」。

“神武東遷”神話

「どうもこの土地は国を治めるにはあまりにも西により過ぎている。
東方にはもっと良い土地があるというから、東に向けて舟出しよう」
と決心し、一番上の兄のイツセノミコトから聞いていた
大和の地を目指す。
その時、舟出するための地として選ばれたのが
日向市「美々津」といわれている

“美々津”に立つ説明板



大和橿原宮(奈良県)に都を置いて初代天皇に付かれた
かしはらのみや

のちの日本書紀に描かれる
“神武東遷”



神武天皇東遷の船出にあたり
航海の安全を祈念し
創祀されたという立磐神社
たていわ

美々津の町に入ると、「神武天皇お船出ものがたり」の説明板が立っていて、大和橿原宮（かしはらのみや）に都を置いて初代天皇に付かれたとあります。

港には神武東遷の船出にあたり航海の安全を祈念し創祀されたという立磐神社があります。

こうして日向神話に触れたのを機会に、日本神話と神武天皇について少しお話したいと思います。

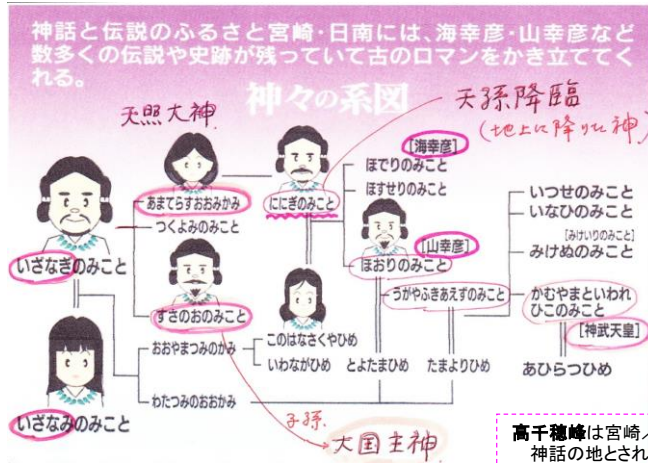
日本神話の中心は古事記や日本書紀に書かれている神話で、日本国と皇室の創世の物語が中心となっています。それも神武天皇の在位する以前までの時代をいっています。従って神武天皇の在位前、紀元前660年以前を指していて、日向、出雲、大和の3つが舞台になっています。出雲は大方が独立した物語で、日向と大和は天・地・海の神の世界から日向へ、日向から大和へと連続した物語として展開されています。

神武天皇は天照大御神の子孫、大国主神は須佐之男命の子孫、天照大御神と神武天皇の間に山幸彦、海幸彦がいて、神武天皇は山幸彦の子孫になります。

この神々の系図が下の図です。

3. 日向神話と神武天皇の東遷／日本神話と神武天皇

神武天皇の誕生と東遷



天孫降臨で地上に降り立った
ニギノミコトは
山幸彦と海幸彦を産み、
山幸彦とトヨタマヒメ
との間に出来た
ウガヤフキアエズノミコトと、
タマヨリヒメとの間に出来たの
が、後の“神武天皇”

高千穂峰は宮崎／鹿児島県境の霧島連峰の1つ。天孫降臨神話の地とされ、山頂に青銅製の天逆鉾が立っている。

“神武天皇”は高千穂の宮で国を治めていた。
皇太子となる15歳の時に宮崎に移り、東遷に向う45歳まで宮崎で過ごす。
東方にはもっと良い土地があるということで、大和の地を目指し、その時、舟出したのが日向市“美々津”。“皇宮屋”は神武天皇が東征に出発するまでの宮居(みやい)の跡といわれる。

201

この神々の系図は宮崎県の観光パンフレットからコピーしたものです。左側の「いざなぎのみこと」と「いざなみのみこと」がいて、ここから神話がスタートします。「いざなぎのみこと」の子が天照大神、その子のニギノミコトが天孫降臨で地上に降りてきた神です。この子に海彦、山彦がいて、山彦の孫が神武天皇になります。詳しくいうと天孫降臨で地上に降り立ったニギノミコトは山幸彦と海幸彦を産み、山幸彦とトヨタマヒメとの間に出来たウガヤフキアエズノミコトと、タマヨリヒメとの間に出来たのが、後の神武天皇になります。

図中に書いてあるように、神武天皇は高千穂の宮で国を治めていました。ニギノミコトが天孫降臨で天から地上に降りてきて、それから子供を増やして行ったので、神武天皇はこの地に住んでいたことになります。天孫降臨の地は宮崎／鹿児島県境の霧島連峰の一つの“高千穂峰”とされています。この山頂に立つ青銅製の天逆鉾が有名です。

皇太子となる15歳の時に宮崎「皇宮屋」に移って、東遷に向かう45歳まで過ごし、このあと美々津から大和の地を目指しています。皇宮屋はそれまで住んでいた宮居の跡といわれています。

天逆鉾が座する“高千穂峰”は大河ドラマ「竜馬伝」で、坂本竜馬がおりょうを連れて高千穂峰を登ったシーンが放映されています。

下の写真は神武天皇が 15 歳から東遷に向かう 45 歳まで過ごしたという聖蹟
皇宮屋跡です。宮崎神宮の近く北西方向にあります。

3. 日向神話と神武天皇の東遷／日本神話と神武天皇

宮崎の宮 “皇宮屋、

(こぐや)

宮崎神宮の北西近くに、大和に東遷するまでの
皇居だったと伝わる “皇宮屋、” がある。中央に「皇
軍発祥の地」の大きな石塔が建っている。

皇太子となる15歳の時に宮崎へ移られ、
東遷に向う45歳まで過ごされている。
入口に「聖蹟皇宮屋」の記念碑が
建っていて、この奥に “皇宮神社、” がある。
御祭神は神日本磐余彦天皇

神武天皇は日本書紀では
神日本磐余彦天皇と称されている。
(かむやまといはれひこのすめらみこと)



宮崎の宮 “皇宮屋、”



皇宮神社(こうぐじんじや)

2016/5/19

皇宮屋の入口に「聖蹟皇宮屋」の記念碑が建っています。中央に大きな皇軍
発祥の地の石塔が建っていて、この奥に “皇宮神社、” があります。御祭神は神
日本磐余彦天皇、日本書紀で言われる神武天皇の名前です。

平和台公園の一面に建つ平和の塔 “八紘之基柱 (あめつちのもとしら)” を訪
れたあと皇宮屋に立寄るつもりだったが見落として帰宅。改めて宮崎駅にきた
ときタクシーで皇宮屋を訪れようとしたところ、運転手もすぐには分からな
かったようでした。忘れられた史蹟という感じがします。

日向街道を南下し宮崎市中心街に入る手前、平和台公園の一面に世界各地か
ら集められた石で築かれた高さは 37m の大きな「平和の塔」が建っています。

正面に「八紘一字」の 4 文字が彫られています。大意は “道義的に天下を一
つの家のようにする” とあり、塔の旧名称は “八紘之基柱”。神武天皇が大和
に東遷するまでの皇居と伝えられる “皇宮屋” の北の丘に紀元 2600 年記念行事
の一つとして昭和 15 年 (1940) に建造されています。(下の写真)

3. 日向神話と神武天皇の東遷／日本神話と神武天皇

平和の塔 “八紘之基柱”

(あめつちのもとししら)

宮崎市中心街に入の手前、平和台公園の一角に、
大きな「平和の塔」が建っている。

正面に「^{はっこういちう}八紘一字」の4文字が
彫られている。

大意は

“道義的に天下を一つの家のようにする”
という意味。高さは37mで、世界各地から
集められた石で築かれている。

塔の正式名称は“八紘之基柱”
神武天皇が大和に東遷するまでの皇居
と伝えられる“皇宮屋”の北の丘に
紀元2600年記念行事の一つとして
昭和15年(1940)に建造された



塔の四隅の像は、一霊四魂説の和御魂（工人・にぎみたま）、幸御魂（農人・さきみたま）、奇御魂（漁人・くしみたま）、荒御魂（武人・あらみたま）で、昔の生活風俗を偲ばせているといわれています。

戦後、米軍によって「八紘一字」の文字と武人の象徴であった荒御魂像が撤去され、塔の名称も「平和の塔」と改称されたが、占領統治が終わった昭和 37 年に荒御魂像が、昭和 40 年に「八紘一字」の文字が復元されています。

一霊四魂説は日本神道の靈魂観で、神や人には荒（活動）、和（調和）、幸（幸福）、奇（靈感）の四つの魂があり、それらの四魂を直霊という一つの霊がコントロールしているという意味だといわれています。次頁の写真が四隅の像の説明です。

3. 日向神話と神武天皇の東遷／日本神話と神武天皇

平和の塔「八紘之基柱」

(あめつちのもととはしら)

塔の四隅に建っている
像は、一霊四魂説の

- ・荒御魂(武人) あらみたま
- ・和御魂(工人) にぎみたま
- ・幸御魂(農人) さきみたま
- ・奇御魂(漁人) くしみたま

昔の生活風俗を
偲ばせているという。



一霊四魂 (いちれいしかい)
直霊 (なおひ)

一霊四魂とは、
古代日本神道の靈魂観で、
人間は靈的存在であり、靈は
四魂を統括する直霊と
四魂(荒魂、和魂、幸魂、奇魂)
から構成されているという概念

神や人には
荒(活動)
和(調和)
幸(幸福)
奇(靈感)

の四つの魂があり、
それらの四魂を直霊という
1つの靈がコントロールしている
という意味



はっこういちろう

戦後「八紘一宇」の文字と武人の象徴であった荒御魂像が
撤去され、塔の名称も「平和の塔」と呼ばれるようになった。
占領統治が終わった昭和37年(1962)に荒御魂像が、
昭和40年(1965)に「八紘一宇」の文字が復元された。

最後、「日本海軍発祥の地」美々津について

前述の「神武東遷船出の地、美々津港に、「日本海軍発祥の地」の大きな碑
が建っています。次頁の左写真、この傍らに「海軍両爪錨」があります。

日本海軍は天皇が統帥された海軍であり、国として神武天皇御親卒の水軍が
はじめて編成され、発進した美々津の地を「日本海軍発祥之地」と定め、紀元
2600 年記念事業の一環として建立されています。昭和 17 年(紀元 2602) 9 月
10 日に建立されたが、太平洋戦争の終戦直後に碑文が破壊され、同 44 年 9 月
12 日に復元されています。

次頁右の写真は「聖蹟皇宮屋」の中央に建っていた「皇軍発祥の地」の石塔
です。側面に「紀元二千六百年 陸軍大将杉山元書」と刻記されています。

神武天皇がここを出発して大和橿原宮(かしはらのみや)に都を置いて、初
代天皇に付かれたのが 2 月 11。神武天皇即位の年を元年とし、毎年 2 月 11 日が
紀元節になっています。西暦に換算すると紀元前 660 年。紀元 2600 年は昭和 15
年(1940)になります。紀元節は現在「建国記念日」として祝日になっていま
す。

3. 日向神話と神武天皇の東遷／日本神話と神武天皇

日本海軍発祥の地「美々津」

美々津港に「日本海軍発祥之地」の碑が建っていて、この傍に「海軍両爪錨」がある。
日本海軍は天皇が統帥された海軍であり、国として神武天皇御親率の水軍がはじめて
編成され、発進した美々津の地を「日本海軍発祥之地」と定め、紀元2600年記念事
業の一環として建立されている。

「日本海軍発祥之地」碑は、昭和17年(紀元2602)9月10日に建立されたが、
太平洋戦争の終戦直後に碑文が破壊され、同44年9月12日に復元。

一方、「聖蹟皇宮屋」には、中央に「皇軍発祥の地」の大きな石塔が建っている。側面に
「紀元二千六百年 陸軍大将杉山元書」と刻記されている。



「日本海軍発祥之地」碑



「皇軍発祥の地」石塔

神武天皇即位の年を元年とし、毎年2月11日が紀元節になっている。西暦に換算すると紀元前660年。
紀元2600年は昭和15年(1940)にあたる。紀元節は現在「建国記念日」として祝日になっている。

以上をもって終わらせていただきます。

昨年3月に北海道と沖縄を除く45都府県を歩き終えたあと、一年間かけて
「旧街道紀行 歩いて学ぶ歴史と文化」を起稿。今年4月末、けやき出版から出
版の予定です。

本日は、この著書の第2章「街道のしくみ」、第8章「日向神話と神武天皇
の東遷」の一部をピックアップしお話ししております。(概要を末尾に添付)

著書

旧街道紀行 歩いて学ぶ歴史と文化
(けやき出版 2016 年 4 月末発行予定)



発行所

株式会社 けやき出版
〒190-0023
東京都立川市柴崎町 3-9-6
高野ビル
TEL 042-525-9909

旧街道紀行 歩いて学ぶ歴史と文化／目次

- | | |
|--|---|
| 第 1 章 旧街道を歩いて
美しい日本 歴史の重み | 第 7 章 キリシタン禁教令と弾圧
キリスト教の伝来と布教
キリシタン禁教令・弾圧 |
| 第 2 章 街道のしくみ
街道の歴史 宿場の機能
街道に設けられた施設や工夫
街道と河川 街道と国境・県境
江戸の牢屋敷と刑場跡 | 第 8 章 日向神話と神武天皇の東遷
日向神話と神武天皇 日本神話について
出雲大社と出雲神話
日本海軍発祥之地 “美々津” |
| 第 3 章 美しい日本の木造建築
日本の木造建築 歴史を語る町並み | 第 9 章 天変地異
江戸時代の大飢饉 記録に残る大地震
火山噴火・台風・雪代 |
| 第 4 章 石仏・石塔と民間信仰
石仏について 石塔について
石仏・石塔と民間信仰
巡礼や修験を伴う民間信仰
街道の神社と寺院 | 第 10 章 太平洋戦争の爪痕
国家総動員法 広島・長崎に投下された原子
爆弾 終戦前後 |
| 第 5 章 歴史に残る戦い
源平の戦い 戦国時代の雌雄を決した戦い
幕末の外国勢との戦い
明治維新と内戦 | 第 11 章 著名人物の足跡・遺徳
蝦夷を平定した坂上田村麻呂
弘法大師の遺徳
多くの伝説を残した源義経、越後国府へ流罪
となった親鸞 |
| 第 6 章 明治維新の原動力となったエネルギー
長崎街道 山陽道 薩摩街道 | 佐渡へ流罪となった日蓮 |